

【分配金のお知らせ】

2017年1月26日
野村アセットマネジメント株式会社

「野村PIMCO・米国ハイ・イールド債券投信(通貨選択型)」「毎月分配型」の 2017年1月25日決算の分配金について

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

「野村PIMCO・米国ハイ・イールド債券投信(通貨選択型)」「毎月分配型」の2017年1月25日決算の分配金についてご案内いたします。

今回の決算におきまして、基準価額水準や市場動向等を総合的に勘案し、「豪ドルコース」および「ニュージーランドドルコース」の分配金を引き下げることいたしました。なお、「円コース」「ブラジルリアルコース」「南アフリカランドコース」「メキシコペソコース」につきましては、前回決算の分配金額から変更ありません。「豪ドルコース」および「ニュージーランドドルコース」の分配金引き下げに関する詳細な説明については次ページ以降をご参照ください。

【分配金】(1万口当たり、課税前)

ファンド	円コース (毎月分配型)	豪ドル コース (毎月分配型)	ニュージーランド ドルコース (毎月分配型)	ブラジル リアルコース (毎月分配型)	南アフリカ ランドコース (毎月分配型)	メキシコ ペソコース (毎月分配型)
分配金額 (前回決算)	40円 (40円)	60円 (70円)	60円 (80円)	60円 (60円)	30円 (30円)	40円 (40円)
決算日の基準価額	9,131円	10,941円	9,722円	6,085円	5,716円	5,770円
決算日の基準価額(分配金再投資) (前回決算)	15,835円 (15,722円)	21,078円 (20,451円)	23,765円 (23,072円)	20,205円 (19,935円)	16,974円 (16,457円)	15,345円 (16,174円)
分配金額設定累計	5,690円	7,770円	9,980円	9,930円	8,720円	9,570円

- ・ 設定日:2009年9月9日、前回決算:2016年12月26日
- ・ 基準価額(分配金再投資)とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したものと計算した価額であり、ファンドの収益率を測るためのものです。したがって、課税条件等によって受益者ごとに収益率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮しておりません。

————— 上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。 —————

【「毎月分配型」の分配の方針】

原則、毎月25日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行ないます。

分配金額は、分配対象額の範囲内で、委託会社が決定するものとし、原則として利子・配当等収益等を中心に安定分配を行なうことを基本とします。ただし、基準価額水準等によっては、売買益等が中心となる場合や安定分配とならない場合があります。

なお、毎年2月および8月の決算時には、上記安定分配相当額に委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。

- * 「原則として、利子・配当等収益等を中心に安定分配を行なう」方針としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移すること等を示唆するものではありません。

分配金は、投資信託説明書(交付目論見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

【各コースの分配金引き下げの背景】

豪ドルコース（毎月分配型）

今回の決算におきまして、「豪ドルコース(毎月分配型)」の分配金を70円から60円に引き下げました。

「豪ドルコース(毎月分配型)」の基準価額は、2014年12月30日には13,477円でしたが、その後概ね下落基調で推移し、2017年1月25日現在10,941円となりました。同期間の騰落率は-18.8%でした。なお、分配金を加味した基準価額(分配金再投資)の同期間の騰落率は-1.9%となりました。

豪ドル(対円)の為替レートは、2014年末以降、資源価格の下落や中国の景気後退懸念などを背景に下落(円高)しました。足元では、米金利上昇を受けた円安進行を背景として上昇しているものの、基準価額下落の主な要因となっています。また、2014年末以降の豪ドルの短期金利は、概ね低下基調で推移し、2016年12月末現在、1.6%となりました。

こうした動向のなか、足元の基準価額は若干の回復基調にあるものの、米国ハイ・イールド債や通貨・金利の動向、基準価額水準や基準価額に対する分配金額などを総合的に勘案し、また、信託財産の着実な成長を目指すべく、2016年7月決算の分配金引き下げ(90円⇒70円)に続き、今回の決算においても分配金を引き下げることにしました。

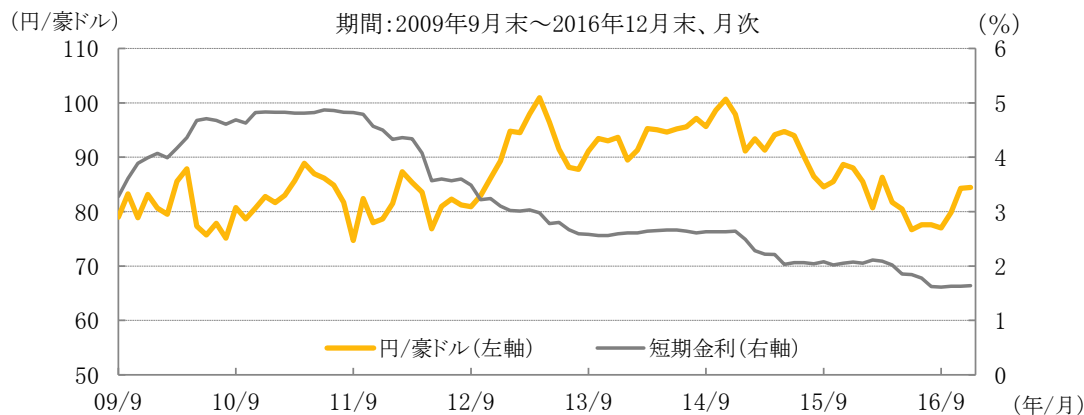
<「豪ドルコース（毎月分配型）」の基準価額の推移>



基準価額(分配金再投資)とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したものとして計算した価額であり、ファンドの収益率を測るためのものです。したがって、課税条件等によって受益者ごとに収益率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮しておりません。

上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

<豪ドルの為替レート（対円）と短期金利の推移>



(出所)ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

【各コースの分配金引き下げの背景】

ニュージーランドドルコース（毎月分配型）

今回の決算におきまして、「ニュージーランドドルコース(毎月分配型)」の分配金を80円から60円に引き下げました。

「ニュージーランドドルコース(毎月分配型)」の基準価額は、2014年12月30日には13,763円でしたが、その後、概ね下落基調で推移し、2017年1月25日現在9,722円となりました。同期間の騰落率は-29.4%でした。なお、分配金を加味した基準価額(分配金再投資)の同期間の騰落率は-0.6%となりました。

ニュージーランドドル(対円)の為替レートは、2014年末以降、乳製品価格の下落や中国の景気後退懸念などを背景に下落(円高)しました。足元では、好調な同国の景気などにより上昇しているものの、基準価額下落の主な要因となっています。また、2014年末以降のニュージーランドドルの短期金利は低下基調で推移し、2016年12月末現在、1.9%となりました。

こうした動向のなか、足元の基準価額は若干の回復基調にあるものの、米国ハイ・イールド債や通貨・金利の動向、基準価額水準や基準価額に対する分配金額などを総合的に勘案し、また、信託財産の着実な成長を目指すべく、2016年10月決算の分配金引き下げ(120円⇒80円)に続き、今回の決算においても分配金を引き下げることとしました。

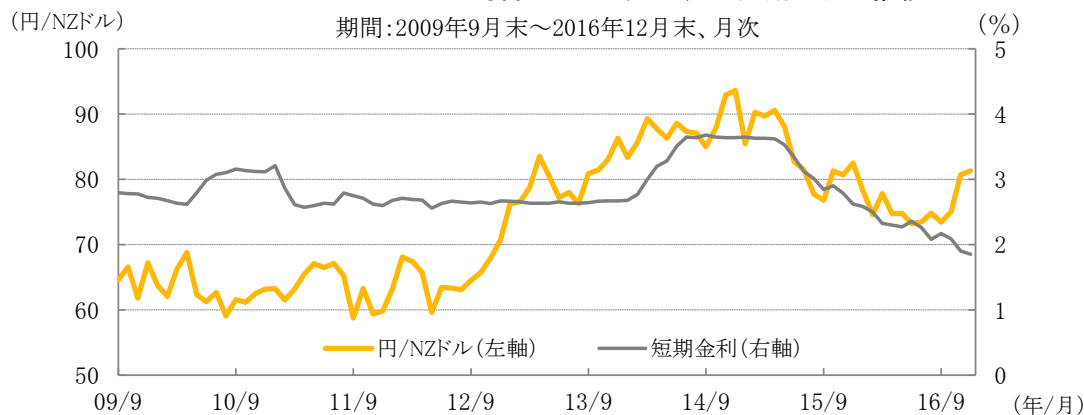
＜「ニュージーランドドルコース（毎月分配型）」の基準価額の推移＞



基準価額(分配金再投資)とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したものと計算した価額であり、ファンドの収益率を測るためのものです。したがって、課税条件等によって受益者ごとに収益率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮しておりません。

上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

＜ニュージーランドドルの為替レート（対円）と短期金利の推移＞



(出所)ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、債券等の値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります。)ので基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡す投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

【米国ハイ・イールド債の投資環境と今後の見通し】

米国ハイ・イールド債市場について

●米国ハイ・イールド債の投資環境

ファンドが実質的に投資対象とする米国ハイ・イールド債(BB～B格)※のパフォーマンスは、2015年半ばから2016年初にかけて下落する局面もありましたが、その後は反発が見られ、米国での景気回復期待を背景に2016年後半にかけて堅調に推移しました。

2015年6月～2016年2月中旬まで、下落が続く

2015年6月以降は、原油価格の下落、ギリシャのデフォルト懸念、中国の景気減速懸念等を背景に世界経済の先行きに対する警戒感が高まったことから米国ハイ・イールド債は下落基調となりました。2015年12月に米金融当局が利上げを決定したことや、原油価格がさらに下落したことから、金融市場の混乱が継続し2016年に入っても当初は軟調な展開となりました。

2016年2月中旬以降、2016年10月下旬まで、反発に転じ上昇基調に

2016年2月中旬以降、原油価格が回復したことや米国の利上げが緩やかなペースになるとの観測が広がったことなどから、世界経済の先行きに対する不透明感が後退し、反発しました。その後英国のEU離脱問題を背景とした投資家のリスク回避的な動きから、米国ハイ・イールド債が一時的に下落する局面もありましたが、米国での良好な経済指標を背景に景気回復期待が高まる中、上昇基調となりました。

2016年10月下旬以降、米大統領選を経て、上げ幅を拡大

2016年10月下旬以降は、2016年11月の米国大統領選を控え投資家のリスク回避的な動きが強まったことから、一時的に軟調となる場面もありましたが、米国大統領選でトランプ氏の当選が確定すると同氏の掲げる景気刺激策に対する期待が高まり、上昇に転じました。2016年12月には米金融当局が利上げを実施しましたが、米国ハイ・イールド債への影響は限定的となり、2016年末にかけて上げ幅を拡大しました。

●今後の見通し

米国ハイ・イールド債市場は引き続き原油価格の回復が見込まれることや、トランプ新政権の掲げる景気刺激策の恩恵を受けると見られること、また利回りも相対的に魅力的な水準にあることから、今後も良好な投資環境が続くと考えています。

堅調な原油価格やトランプ新政権の掲げる景気刺激策に期待

これまで見られた米国の雇用市場の回復に加え、トランプ新政権の掲げる景気刺激策は、米国での投資促進や消費拡大につながり内需を中心に成長率を押し上げる効果があることから、米国ハイ・イールド債市場の追い風になると見られます。さらにOPEC(石油輸出国機構)とロシア等の非OPEC間で15年ぶりとなる原油の協調減産を受けて、原油価格を始め資源価格全般に安定化の動きが見られることも、これまで米国ハイ・イールド債市場の変動要因となったコモディティ・セクターの安定化につながることからプラス材料と見られます。

米国ハイ・イールド債の魅力的な利回りの高さ

日本や欧州等の米国以外の先進国では金融緩和政策が維持され、依然として低金利環境が続く中、米国ハイ・イールド債券は5%台の利回り(2016年12月末現在)であり相対的に高い水準を維持しています。市場では相対的に高い利回りに注目した資金流入が続いており、需給面から米国ハイ・イールド債市場を押し上げる動きがみられます。2016年2月中旬以降、米国ハイ・イールド債債券市場は上昇を続けてきましたが、今後も引き続き相対的に高い利回りに対する需要が見込まれ、また良好なファンダメンタルズを背景にデフォルト率は低位で推移すると見られることから、今後も堅調な推移が期待されます。従って、2017年も注目の資産クラスであると考えています。

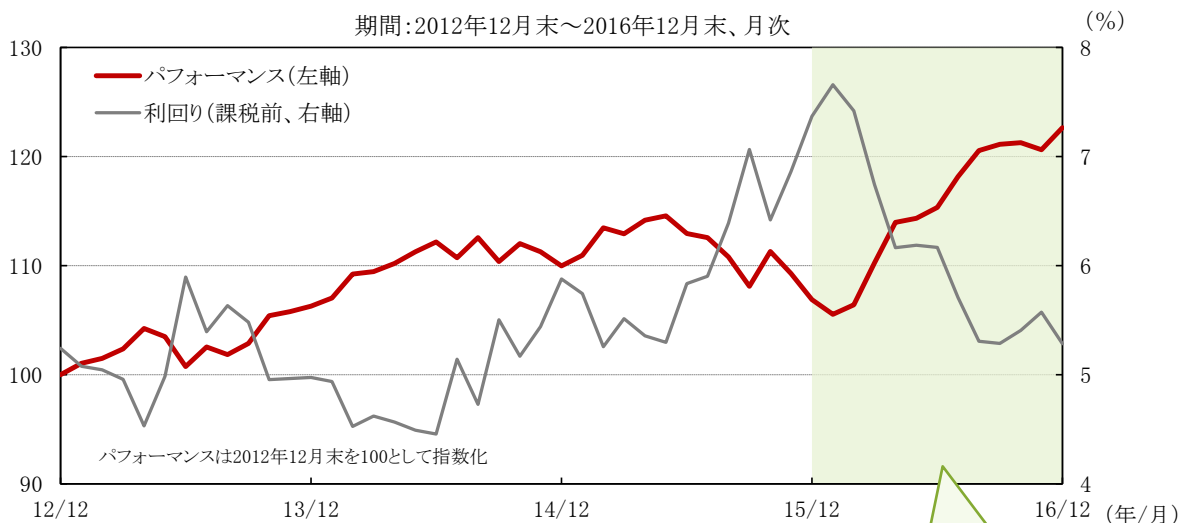
※ BofA・メリルリンチ・US ハイ・イールド・キャッシュ・ペイ・BB-B レイティド・コンストレインド・インデックス

【米国ハイ・イールド債の投資環境と今後の見通し】

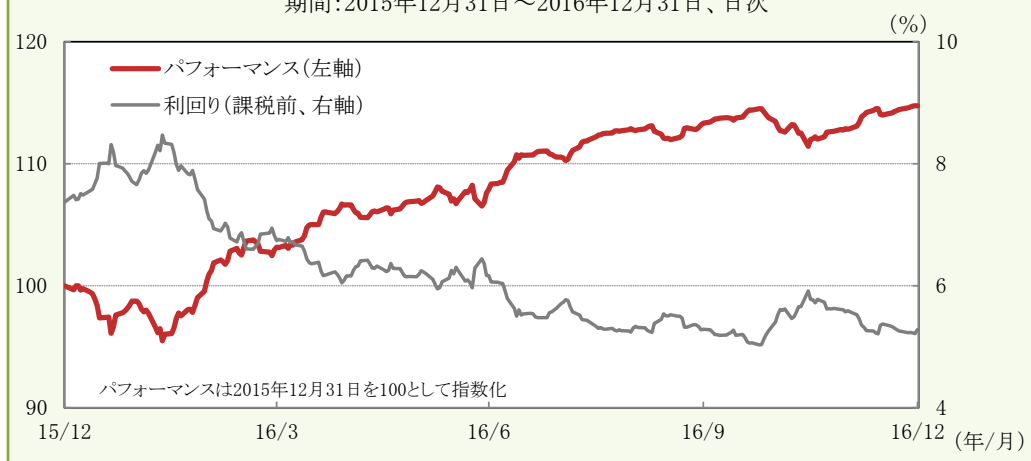
米国ハイ・イールド債市場について

＜米国ハイ・イールド債(BB～B格)のパフォーマンスと利回りの推移＞

期間:2012年12月末～2016年12月末、月次



期間:2015年12月31日～2016年12月31日、日次



米国ハイ・イールド債(BB～B格)(米ドル建て):BofA・メリルリンチ・US ハイ・イールド・キャッシュ・ペイ・BB-B レイティド・コンストレインド・インデックス
(出所)ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料で使用した金利・市場指数について

【各通貨の短期金利】

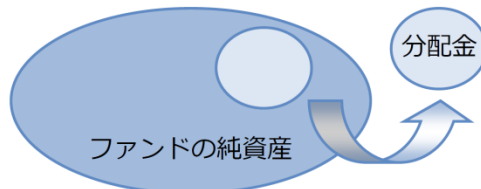
●豪ドル:銀行手形1ヵ月、ニュージーランドドル:銀行手形1ヵ月

【市場指数】

●BofA・メリルリンチ・US ハイ・イールド・キャッシュ・ペイ・BB-Bレイティド・コンストレインド・インデックスは、バンクオブアメリカ・メリルリンチが算出する指数です。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はバンクオブアメリカ・メリルリンチに帰属しております。

分配金に関する留意点

●分配金は、預貯金の利息とは異なりファンドの純資産から支払われますので、分配金支払い後の純資産はその相当額が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。



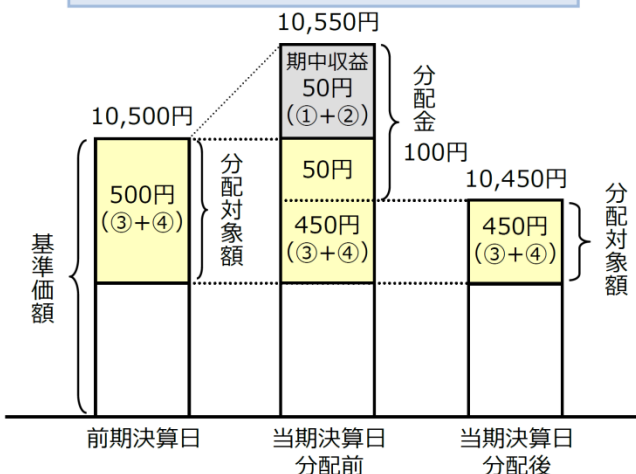
●ファンドは、計算期間中に発生した運用収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて分配を行なう場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。

・計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行なった場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。

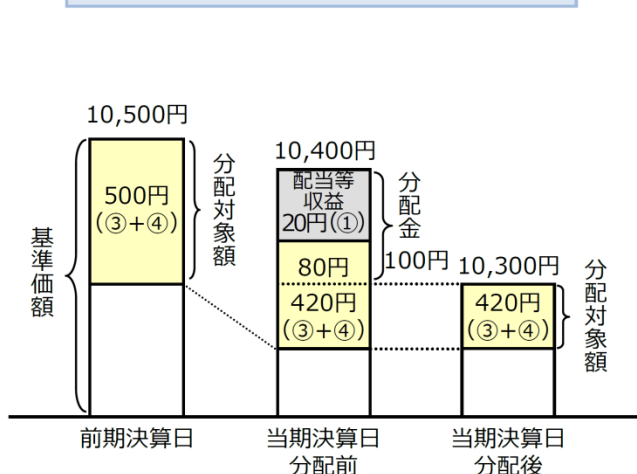
※分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

分配対象額とは、①経費控除後の配当等収益②経費控除後の評価益を含む売買益③分配準備積立金④収益調整金です。

前期決算から基準価額が上昇した場合

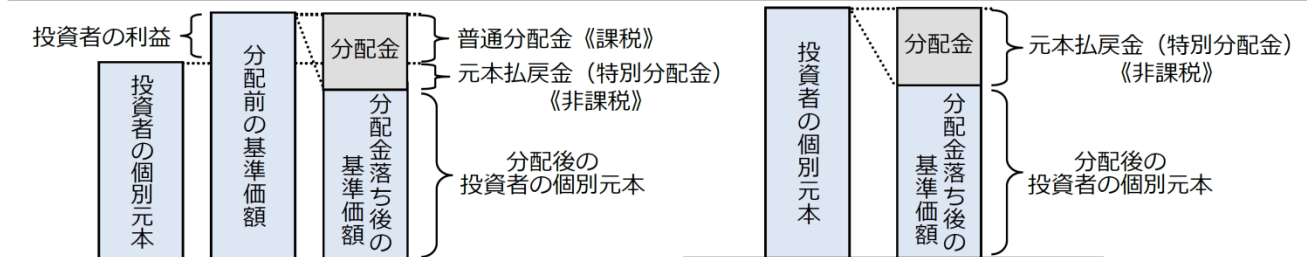


前期決算から基準価額が下落した場合



●投資者の個別元本（追加型投資信託を保有する投資者毎の取得元本）の状況によっては、分配金額の一部または全部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

- ◇普通分配金 … 分配金落ち後の基準価額が投資者の個別元本と同額の場合または投資者の個別元本を上回っている場合には分配金の全額が普通分配金となります。
- ◇元本払戻金（特別分配金） … 分配金落ち後の基準価額が投資者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となります。



※投資者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、分配金発生時にその個別元本から元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の投資者の個別元本となります。

(注) 普通分配金に対する課税については、投資信託説明書（交付目論見書）の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

上記はイメージ図であり、実際の分配金額や基準価額について示唆、保証するものではありません。

《ファンドの特色》

- 「野村PIMCO・米国ハイ・イールド債券投信(通貨選択型)」は、投資する外国投資信託において為替取引手法の異なる6つのコース(円コース、豪ドルコース、ニュージーランドドルコース、ブラジルレアルコース、南アフリカランドコース、メキシコペソコース(各コースには「毎月分配型」、「年2回決算型」があります。))およびマネープールファンド(年2回決算型)の13本のファンドから構成されています。
- 各コース(マネープールファンドを除く6つのコースを総称して「各コース」といいます。)
 - ◆ 高水準のインカムゲインの確保と中長期的な信託財産の成長を図ることを目的として運用を行いません。
 - ◆ 米ドル建ての高利回り事業債(ハイ・イールド・ボンド)を実質的な主要投資対象*とします。
 - ◆ 円建ての外国投資信託「PIMCO USハイ・イールド・ストラテジー・ファンド*」および国内投資信託「野村マネーポートフォリオ マザーファンド」を投資対象とします。

※「PIMCO USハイ・イールド・ストラテジー・ファンドA」および「PIMCO USハイ・イールド・ストラテジー・ファンドB」を総称して「PIMCO USハイ・イールド・ストラテジー・ファンド」といいます。
 ・「PIMCO USハイ・イールド・ストラテジー・ファンド」には、為替取引手法の異なる6つのクラスがあります。

各コース	各コースが投資対象とする外国投資信託の為替取引手法
円コース (毎月分配型) / (年2回決算型)	米ドル建て資産を、原則として対円で為替ヘッジを行いません。
豪ドルコース (毎月分配型) / (年2回決算型)	米ドル建て資産について、原則として米ドルを売り、豪ドルを買う為替取引を行いません。
ニュージーランドドルコース (毎月分配型) / (年2回決算型)	米ドル建て資産について、原則として米ドルを売り、ニュージーランドドルを買う為替取引を行いません。
ブラジルレアルコース (毎月分配型) / (年2回決算型)	米ドル建て資産について、原則として米ドルを売り、ブラジルレアルを買う為替取引を行いません。
南アフリカランドコース (毎月分配型) / (年2回決算型)	米ドル建て資産について、原則として米ドルを売り、南アフリカランドを買う為替取引を行いません。
メキシコペソコース (毎月分配型) / (年2回決算型)	米ドル建て資産について、原則として米ドルを売り、メキシコペソを買う為替取引を行いません。

- ◆ 通常の状況においては、「PIMCO USハイ・イールド・ストラテジー・ファンド」への投資を中心とします*が、投資比率には特に制限は設けず、各投資対象ファンドの収益性および流動性ならびにファンドの資金動向等を勘案のうえ決定することを基本とします。
 ※通常の状況においては、「PIMCO USハイ・イールド・ストラテジー・ファンド」への投資比率は、概ね90%以上を目処とします。
- ◆ 運用にあたっては、ピムコジャパンリミテッドに、運用の指図に関する権限の一部を委託します。
- ◆ 各コースはファンド・オブ・ファンズ方式で運用します。
- マネープールファンド
 - ◆ 安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行いません。
 - ◆ 円建ての短期有価証券を実質的な主要投資対象*とします。
 ※「実質的な主要投資対象」とは、「野村マネーポートフォリオ マザーファンド」を通じて投資する、主要な投資対象という意味です。
 - ◆ 「野村マネーポートフォリオ マザーファンド」への投資を通じて、残存期間の短い公社債やコマーシャル・ペーパー等の短期有価証券への投資により利息等収益の確保を図り、あわせてコール・ローンなどで運用を行なうことで流動性の確保を図ります。
 - ◆ ファンドは「野村マネーポートフォリオ マザーファンド」を通じて投資するファミリーファンド方式で運用します。
- 「野村PIMCO・米国ハイ・イールド債券投信(通貨選択型)」を構成する「毎月分配型」のファンド間および「年2回決算型」のファンド間でスイッチングができます。

● 分配の方針

◆ 毎月分配型

原則、毎月25日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行いません。分配金額は、分配対象額の範囲内で、委託会社が決定するものとし、原則として利子・配当等収益等を中心に安定分配を行なうことを基本とします。ただし、基準価額水準等によっては、売買益等が中心となる場合や安定分配とならない場合があります。なお、毎年2月および8月の決算時には、上記安定分配相当額に委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。

※「原則として、利子・配当等収益等を中心に安定分配を行なう」方針としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移すること等を示唆するものではありません。

◆ 年2回決算型

原則、毎年2月および8月の25日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行いません。分配金額は、分配対象額の範囲内で、基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。

* 委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

資金動向、市況動向によっては上記のような運用ができない場合があります。

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、債券等の値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります。)ので基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しの投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。

《投資リスク》

各ファンド(「マネープールファンド(年2回決算型)」を除く)は、投資信託証券への投資を通じて、債券等に実質的に投資する効果を有しますので、金利変動等による当該債券の価格下落や、当該債券の発行体の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替の変動により基準価額が下落することがあります。
「マネープールファンド(年2回決算型)」は、債券等を実質的な投資対象としますので、金利変動等による組入債券の価格下落や、組入債券の発行体の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

【お申込メモ】

- 信託期間 平成31年8月26日まで(平成21年9月9日設定)
●決算日および収益分配 【毎月分配型】年12回の決算時(原則、毎月25日。休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。
【年2回決算型】年2回の決算時(原則、2月および8月の25日。休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。
- ご購入価額 ご購入申込日の翌営業日の基準価額
- ご購入単位 1万口以上1口単位(当初元本1口=1円)
または1万円以上1円単位
なお、「マネープールファンド」は、「年2回決算型」の他のファンドからのスイッチング以外によるご購入はできません。
※ご購入単位は販売会社によって異なる場合があります。
- ご換金価額 【各コース】
ご換金申込日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額
【マネープールファンド】
ご換金申込日の翌営業日の基準価額
- スイッチング 「毎月分配型」のファンド間および「年2回決算型」のファンド間でスイッチングが可能です。
※販売会社によっては、一部または全部のスイッチングのお取扱いを行わない場合があります。
- お申込不可日 各コースは、販売会社の営業日であっても、申込日当日が、下記のいずれかの休業日に該当する場合には、原則、ご購入、ご換金、スイッチングの各お申込みができません。
・ニューヨーク証券取引所
・ブラジル商品先物取引所(ブラジルレアルコースのみ)
・サンパウロの銀行(ブラジルレアルコースのみ)
- 課税関係 個人の場合、原則として分配時の普通分配金ならびに換金時(スイッチングを含む)および償還時の譲渡益に対して課税されます。ただし、少額投資非課税制度などを利用した場合には課税されません。なお、税法が改正された場合などには、内容が変更になる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

【当ファンドに係る費用】

(2017年1月現在)

◆ご購入時手数料	ご購入価額に3.24%(税抜3.0%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 <スイッチング時> 販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 なお、「マネープールファンド」へのスイッチングの場合は無手数料 *詳しくは販売会社にご確認ください。
◆運用管理費用(信託報酬)	【各コース】 ファンドの純資産総額に年1.6524%(税抜年1.53%)の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。 【マネープールファンド】 ファンドの純資産総額に年0.594%(税抜年0.55%)以内(平成28年11月18日現在年0.001188%(税抜年0.0011%)の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。
◆その他の費用・手数料	組入価額に3.24%(税抜3.0%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 <スイッチング時> 販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 なお、「マネープールファンド」へのスイッチングの場合は無手数料 *詳しくは販売会社にご確認ください。
◆信託財産留保額(ご換金時、スイッチングを含む)	【各コース】 1万口につき基準価額に0.3%の率を乗じて得た額 【マネープールファンド】 ありません。

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。
※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

◆お申込みは

野村証券

商号:野村証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第142号
加入協会:日本証券業協会/一般社団法人日本投資顧問業協会/
一般社団法人金融先物取引業協会/
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

◆設定・運用は

野村アセットマネジメント

商号:野村アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号
加入協会:一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会

ファンドの基準価額等についてのお問い合わせ先:野村アセットマネジメント株式会社

★サポートダイヤル★ ☎0120-753104

(受付時間) 営業日の午前9時~午後5時



★インターネットホームページ★

<http://www.nomura-am.co.jp/>



★携帯サイト★

<http://www.nomura-am.co.jp/mobile/>